



The Japanese
Society of
Toxicology

Vol. 37 No. 1
FEBRUARY 2012

毒性学ニュース

日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

*本綴じ込みページは昨年まで「学会情報」として学会および毒性学に関する情報を掲載してきましたが、本年から「毒性学ニュース」に改称し、独立した雑誌（会員情報誌）として扱うことになりました。掲載する基本的な内容はこれまでと同じですが、必要に応じて総説や解説なども掲載する予定です。

毒性学ニュース

Contents

日本毒性学会からのお知らせ

理事長就任の御挨拶 (菅野 純)	1
編集委員長再任にあたって (永沼 章)	2
日本毒性学会理事監事	3
日本毒性学会各種委員会委員長	3
第 39 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 4 報)	4
第 6 回アジア毒性学会学術集会 (ASIATOX-VI) のご案内 (第 2 報)	8
第 13 回日本毒性学会生涯教育講習会案内	11
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 2 報)	12
第 38 回日本毒性学 (トキシコロジー) 会学術年会要旨集の販売について	13

その他のお知らせ

第 5 回応用トキシコロジー リカレント講座開催案内	14
シンポジウム「モレキュラー・キラリティアジア 2012」	14
第 19 回 HAB 研究機構学術年会	15
第 19 回日本免疫毒性学会学術大会	16

J. Toxicol. Sci. 投稿規定

動物実験に関する日本毒性学会指針

日本毒性学会会則

日本毒性学会評議員選出規定

日本毒性学会評議員推薦状 (様式)

日本毒性学会理事・監事選出規定

日本毒性学会常置委員会共通規程

日本毒性学会名誉会員・功勞会員推薦規定

日本毒性学会学会賞選考規定

日本毒性学会奨励賞選考規定

日本毒性学会技術賞選考規定

日本毒性学会田邊賞選考規定

ファイザー賞選考規程

入会案内／変更手続き

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

米国毒性学会教育コースへの学会員派遣に関する規定

理事長就任の御挨拶

日本毒性学会 理事長 菅野 純



毒性学は、あらゆる経路で身体に入り込む種々の外来性物質 (xenobiotics) が引き起こす生体反応を動物実験等の利用可能な手段を用いて明らかにし、その情報から被害を予測して未然に防ぐ学問であり、最終目標を「人の安全」とする、純粋科学、応用科学及び社会科学の複合体です。これを研究する日本毒性学会は、各方面からの要請によりその守備範囲を充実させ、成長してきた歴史を有しております。

私が部長を務める国立医薬品食品衛生研究所・安全性生物試験研究センター・毒性部は、サリドマイド禍を契機に同研究所内に設置されました。「薬効」が睡眠から抗がんへ変遷してきたこの物質は、毒性学を象徴的に示していると考えられます。すなわち、化学物質は生体内に複数の標的を持ち、複数の生体作用を発揮すること、そして、「薬効」は、その内の『その時の患者に都合が良い』生体作用であり、『その時には都合が悪い』生体作用は「副作用」或いは「毒性」として認識される、と言うことを示しています。

私が部長を務める国立医薬品食品衛生研究所・安全性生物試験研究センター・毒性部は、サリドマイド禍を契機に同研究所内に設置されました。「薬効」が睡眠から抗がんへ変遷してきたこの物質は、毒性学を象徴的に示していると考えられます。すなわち、化学物質は生体内に複数の標的を持ち、複数の生体作用を発揮すること、そして、「薬効」は、その内の『その時の患者に都合が良い』生体作用であり、『その時には都合が悪い』生体作用は「副作用」或いは「毒性」として認識される、と言うことを示しています。

新しい生体内標的は関連する純粋科学の成果として次々に見つかり、変遷する薬効や毒性は応用科学で検討されています。前者はマイクロRNAやメチル化DNAなどです。後者は、歴史的なものにもヒントがある場合があります。1981年のノーベル医学生理学賞 (Hubel and Wiesel) は網膜からの神経シグナルの変調のみにより発達期の脳視覚野の構造と機能の異常が誘発される事を示しましたが、これは所謂「シグナル毒性」の典型例であると解釈されます。また、先の年会でサリン禍を取り上げた際、慢性・遅発性の高次神経機能障害が問題であることが臨床の先生方から報告されました。これは教科書に載っていないものでした。この様に生体影響の分析には、日本中毒学会を始め、小児科学や神経眼科学などの臨床科学分野との交流が重要となると考えます。

さて、2011年3月の震災、それに続く放射能禍は毒性学に新たな課題を与えました。その一つは毒性学と放射線医学・影響学の摺り合せの必要性です。化

学物質のリスク評価・管理を行う際に、科学的知見に不足や不確実性があった場合には適切な仮説を設定してきた事に比べて、今般の放射線に関するリスク管理が仮説を採用せずリスク評価を介さずに行われた事例によって明らかとなった諸問題が存在します。この背景には、基礎科学及び応用科学のレベルで、放射線と化学物質の生体影響の共通性 (相互作用も含め) と特異性の検討が体系的に進んでいないことが考えられます。ここで、付随的に表面化するのが、国家レベルで危惧する集団リスクと個人が感じるリスクの差の問題です。ある特定の癌により200人に1人死亡が増えるかもしれないと言われても、199人の個人には全く意識されないでしょう。これは「ゼロリスク」精神の問題と絡み、安全安心問題の根源の一つとなり、今後の毒性学の社会科学的課題となります。

毒性学には守備範囲を更に拡大すべき社会的要請があります。遠藤仁先生の記された「学会の使命・概要」 (<http://www.jsot.gr.jp/about/index.html>) に有る通り、「学」、「産」、そして「官」が合流し成長してきた本学会は、現在「医」や「社」との連携を進める必然性を有する立場に置かれています。「医」には救急医療や慢性・遅発性後遺症の中毒学 (医薬品副作用を含む)、産業医学 (アスベストなどの労働暴露+新規物質)、或いは医薬品の治験 (小児治験問題などを含む)、「社」には繰り返される「安全と安心の違い」に関するリスクコミュニケーションの問題などがあります。

この度、日本毒性学会の理事長という大役を仰せつかり、2012年1月からの2年間を務めさせて頂くことになりました。本学会は、学会員数が2,600人を超え増加傾向にあり、国際的にも、米国SOTに次ぐ会員数を有する毒性学会に成長しております。今までに培った学会活動はそれらを堅持・増強し、その上に新たな活動を展開すべく尽力する所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2012年1月

編集委員長再任にあたって

東北大学大学院薬学研究科 永沼 章



今期(平成24年～25年)も引き続き The Journal of Toxicological Sciences (J. Toxicol. Sci.) の編集委員長を務めさせていただくことになりました。

J. Toxicol. Sci. は、投稿論文の数がこの6年間で約5倍に増加し、年々発展の一途を辿っていると言っても良いほど大きく成長してきました。特に昨年は、念願のインパクトファクターが付与され、しかもその値は1.893という十分に満足できるものでした。これらは、編集委員、Editorial Board および査読に御協力いただいた先生方、さらに、論文を投稿して下さった研究者の皆様のお陰です。この場をかりて心から御礼申し上げます。

インパクトファクターがついたことで、本誌が一流国際学術雑誌の仲間入りをするための条件は1つを除いてほぼ揃ったこととなります。残っているのは毎月発行です。現在は年6回の発行ですが、これを年12回にすることによって毎月新しい情報を発信できるようになりますし、投稿から発行までに要す

る時間も大きく短縮されることになります。毎月発行の実現には比較的多くの予算も必要となりますので簡単なことではありませんが、本誌が目指すべき目標であることは間違いありません。そのためには、インパクトファクターを上げる必要があります。昨年7月に本誌にインパクトファクターが初めてついたわけですが、それ以降海外からの投稿論文数が劇的に増加しました。インパクトファクターが上がれば、それに応じて投稿論文数も増えるので毎月発行も夢ではなくなります。このようなことから、新体制の編集委員会では、インパクトファクターの向上を最優先課題として、更なる発展を目指していきたいと思えます。J. Toxicol. Sci. を一流の国際学術雑誌にするためには、編集委員、Editorial Board そして会員の皆様方のお力添えが必須ですので、御協力のほど、どうぞよろしく願いいたします。

なお、J. Toxicol. Sci. 誌に綴じ込まれている「学会情報」が本年から「毒性学ニュース」に名称変更されました。今後、「毒性学ニュース」には解説記事や総説なども掲載していく予定ですので、こちらもご愛読いただきますようお願いいたします。

日本毒性学会理事監事 (任期 2012/1/1 ~ 2013/12/31)

●理事長

菅野 純 国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター毒性部

●理事

青木 豊彦 エーザイ(株)GR機能ユニット非臨床部
上野 光一 千葉大学大学院薬学研究院高齢者薬剤学研究室

小野寺博志 (独)医薬品医療機器総合機構
鍛冶 利幸 東京理科大学薬学部環境健康学教室
北嶋 聡 国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター毒性部第五室

下村 和裕 第一三共(株)安全性研究所
熊谷 嘉人 筑波大学医学医療系環境医学分野
菅井象一郎 日本たばこ産業(株)安全性研究所
関 二郎 アステラス製薬(株)安全性研究所
天間 恭介 北里大学獣医学部毒性学
遠山 千春 東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター健康環境医工学部門

苗代 一郎 武田薬品工業(株)医薬研究本部研究アライアンス室

中村 和市 塩野義製薬(株)開発薬事部
永沼 章 東北大学大学院薬学研究科生体防御薬学分野

西川 秋佳 国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター

久田 茂 あすか製薬(株)開発研究センター
船橋 斉 大日本住友製薬(株)安全性研究所
眞鍋 淳 第一三共(株)執行役員グループ人事
吉田 武美 昭和大学薬学部毒物学教室

●監事

海野 隆 医薬品非臨床安全コンサルタント
佐神 文郎 エーザイ(株)プロダクトクリエーションサイトサービス部業務推進部

日本毒性学会各種委員会委員長 (任期 2012/1/1 ~ 2013/12/31)

●理事長

菅野 純 国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター毒性部

●総務委員会

眞鍋 淳 第一三共(株)執行役員グループ人事

●財務委員会

中村 和市 塩野義製薬(株)開発薬事部

●編集委員会

永沼 章 東北大学大学院薬学研究科生体防御薬学分野

○田邊賞選考小委員会 (2012年度)

山田 久陽 大正製薬(株)安全性動態研究所安全性研究室

●教育委員会

鍛冶 利幸 東京理科大学薬学部環境健康学教室

○生涯教育小委員会

鈴木 雅実 中外製薬(株)富士御殿場研究所安全性研究部

○基礎講習会小委員会

務台 衛 田辺三菱製薬(株)開発本部臨床薬理センター早期臨床計画部

○認定試験小委員会

広瀬 明彦 国立医薬品食品衛生研究所

●学術広報委員会

熊谷 嘉人 筑波大学医学医療系環境医学分野

○学術小委員会

苗代 一郎 武田薬品工業(株)医薬研究本部研究アライアンス室

○広報小委員会

下村 和裕 第一三共(株)安全性研究所

第 39 回日本毒性学会学術年会のご案内（第 4 報）

※第 6 回アジア毒性学会学術集会（ASIATOX-VI）と同時期開催いたします。

1. 日 時

2012 年 7 月 17 日（火）～ 19 日（木）

2. 会 場

仙台国際センター

〒 980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地

TEL: 022-265-2211（代表）

URL: <http://www.sira.or.jp/icenter/>

3. 年会長

永沼 章（東北大学大学院薬学研究所）

TEL: 022-795-6870

4. 企画委員（敬称略）

大野 泰雄（国立医薬品食品衛生研究所）

鍛冶 利幸（東京理科大学）

菅野 純（国立医薬品食品衛生研究所）

熊谷 嘉人（筑波大学）

佐藤 雅彦（愛知学院大学）

下村 和裕（第一三共株式会社）

菅井象一郎（日本たばこ産業株式会社）

杉本 哲朗（中外製薬株式会社）

津田 修治（岩手大学名誉教授）

遠山 千春（東京大学）

中村 和市（塩野義製薬株式会社）

西田 信之（武田薬品工業株式会社）

野村 護（株式会社イナリサーチ）

姫野誠一郎（徳島文理大学）

広瀬 明彦（国立医薬品食品衛生研究所）

堀井 郁夫（ファイザー株式会社）

眞鍋 淳（第一三共株式会社）

山添 康（東北大学）

横井 毅（金沢大学）

吉田 武美（昭和大学名誉教授）

5. 特別企画（予定、敬称略）

1) 市民公開セミナー

テーマ: 「食品汚染物質の安全性・危険性」

日時: 2012 年 7 月 16 日（月・祝）

午前 10:00～11:30

場所: 仙台市シルバーセンター

（仙台駅より徒歩 5 分）

2) 年会長招待講演

遠山 千春（東京大学大学院医学系研究科）

3) 特別講演

(1) Daniel Acosta, Jr.

(University of Cincinnati, USA)

(2) Young-Joon Surh

(Seoul National University, Korea)

(3) 山本 雅之（東北大学大学院医学系研究科）

(4) F. Peter Guengerich

(Vanderbilt University School of Medicine, USA)

4) 教育講演

(1) 横井 毅（金沢大学）

(2) Christopher Si-Lung Lau

(U.S. Environmental Protection Agency, USA)

(3) Jin-Ho Chung

(Seoul National University, Korea)

(4) 岩崎 甫（山梨大学大学院医学工学総合研究部）

5) シンポジウム（仮題・順不同）

・エピジェネティクスから捉えた毒作用発現

・毒性オミクス

・生態毒性試験生物の基礎研究

・再生医療とその安全性評価

・子どもの毒性学

・神経行動毒性試験の標準化と新たな指標開発の展開

・日本における農薬等の急性期影響評価の必要性

・慢性毒性試験結果からの発がん性予測

- ・薬物性肝障害 —最新知見を基に
- ・重金属の毒性とその防御の分子メカニズム
- ・臨床副作用と非臨床毒性の相関 —種差を乗り越えて—
- ・In vitro 毒性試験法の探索毒性試験への展開
- ・環境化学物質による毒性メカニズムの分子基盤
- ・創薬スクリーニングにおける毒性評価
- ・(電離)放射線被曝と毒性学における課題・・福島原発問題を契機として
- ・ファーマコビジランス (PV)

6) ミニシンポジウム

- ・就職希望の学生を対象とした安全性研究所等の紹介
- ・若手研究者セミナー

7) サテライトシンポジウム (7月20日開催予定)

- ・化学物質の安全性を in silico で評価する

6. 一般講演

- 1) 一般演題 (口演およびポスター) を募集します。主発表者 (プレゼンター) は本学会会員に限ります (1名1演題)。現在非会員の方で発表を希望される方は、学会 HP 掲載の入会申込書にて、日本毒性学会事務局へ入会の手続きを行って下さい。

- 2) 演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみです。下記7に記載する「演題登録要領」を参照の上、第39回日本毒性学会学術年会 HP から登録して下さい。

演題申込締切日:

2012年3月5日 (月) 午後1:00 (予定)

- 3) 一般演題は口演またはポスター発表とします。口演の発表時間は7分、討論3分の計10分を予定しています。発表方法は液晶プロジェクターのみです。ポスター発表は、毎日貼替えでポスター展示を行い、途中に質疑応答時間を設けます。詳細については年会 HP にて追ってご案内いたします。

4) 優秀研究発表賞

2012年4月1日の時点で40歳以下の方を対象とします。応募者は演題申込時にその旨登録して下さい。応募者はポスター発表に加え、別会場で5分の口頭発表と3分の質疑応答を行っていただく予定です。発表スライドは、年会当日受け付けいたします。受賞者の発表は学術年会

最終日に行います。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

7. 演題登録要領

演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみです。締め切り間際はアクセス集中によりサーバ処理能力が極端に低下します。そのため、登録に時間を要する、あるいは登録が完了できないといった事態が生じることが予測されますので、演題募集要項と年会 HP を熟読した上で、余裕をもって登録して下さい。

◆登録方法ならびに登録確認・修正◆

年会 HP (<http://www.jsot2012.com>) にアクセスし、演題募集のメニューより案内に従って、次の流れのように登録を進めて下さい。なお、演題登録は発表者本人が行って下さい。

発表者個人情報登録→共著者・演題情報登録→登録内容確認→登録完了

1) 発表者個人情報登録

発表者は本学会会員に限ります。(1名1演題)登録には会員番号(5桁)が必要です。

パスワード(半角英数)は登録内容の確認や変更を行うときに使用します。4文字以上10文字以内で入力して下さい。なおパスワードは「登録内容の変更」により変更することが可能です。入力したパスワードは各自で大切に記録・保管して下さい。

2) 共著者・演題情報登録

2-1) 共著者情報登録

共著者の氏名・所属を入力して下さい。共著者数は最大20名、所属機関名は最大15施設まで登録可能です。

2-2) 演題カテゴリー登録

年会 HP 記載の一覧の中から1つを選択して下さい。

2-3) 演題情報

発表形式を「口演」、「ポスター」、「どちらでも可」の中から選択して下さい。優秀研究発表賞に応募する場合は「ポスター」を選択して下さい。

優秀研究発表賞への応募の有無を選択して

下さい。(応募資格は2012年4月1日時点で40歳以下)

2-4) 抄録作成要領

抄録はMS-Wordで作成して下さい。文字数は全角で800文字以内(半角英数字は2文字を1文字に換算)です。本文中に演題名・所属・氏名・図表等を入れないで下さい。

3) 登録内容確認・訂正

登録の最後に登録情報の確認画面が表示されますので、内容を確認・修正下さい。後日改めて確認・修正を行なう場合は、登録時に入力したパスワードを用いて確認・訂正画面を表示させることができます。

4) 登録完了

登録が完了すると受付番号が表示されます。登録したメールアドレス宛てに演題登録完了メールが送信されますので確認して下さい。翌日まで経過してもメールが届かない場合は事務局までご連絡下さい。

8. 参加登録および参加費

事前参加申込締切日:

2012年5月22日(火)午後1:00(予定)

1) 参加費

◆参加登録区分には、次の2通りがございます。

- ・第39回日本毒性学会学術年会のみ参加する場合
- ・第6回アジア毒性学会学術集会(ASIATOX-VI)にも参加する場合

それぞれの参加費に含まれる詳細は下記に記載しております。同時期開催の第6回アジア毒性学会学術集会 ASIATOX-VIにも参加する方は、懇親会も含んだお得な料金になっておりますので、是非お申込み下さい。

1-1) 第39回日本毒性学会学術年会のみ参加する場合

(年会参加証, プログラム・講演要旨集を含む)

学会員 10,000円(当日 12,000円)

非学会員 12,000円(当日 14,000円)

学生会員 3,000円(当日 4,000円)

懇親会費(一般) 8,000円(当日 10,000円)

(学生) 4,000円(当日 5,000円)

1-2) 第6回アジア毒性学会学術集会

(ASIATOX-VI)にも参加する場合

(年会・ASIATOX-VI参加証, 年会・ASIATOX-VIプログラム・講演要旨集, 懇親会費, ASIATOX-VI ウェルカムレセプションを含む)

学会員 25,000円(当日 32,000円)

非学会員 27,000円(当日 34,000円)

学生会員 10,000円(当日 13,000円)

2) 振込み方法

・郵便局

・コンビニエンスストア

参加登録が完了すると、10日以内に参加費支払用の専用振込用紙がご指定の住所に郵送されます。振込用紙を受け取りましたら、振込用紙に記載されている日時までに郵便局または該当コンビニエンスストアにてお支払い下さい。

(本年度では本毒性学ニュースに同封される振込用紙による振込依頼は行いませんので、ご注意下さい。)

9. 懇親会

7月18日(水)にASIATOX-VIとの合同懇親会を開催いたしますので、是非ご参加下さい。

会場:メトロポリタンホテル仙台(仙台駅直結)

時間:午後6時より(予定)

10. ランチョンセミナー等の募集

ランチョンセミナースポンサー, 広告掲載, 展示出展を募集します。詳細は年会HP (<http://www.jsot2012.com>)にて追ってご案内いたします。お問い合わせ, お申込につきましては, 年会事務局までご連絡下さい。

11. 年会事務局

〒 980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3
東北大学大学院薬学研究科生体防御薬学分野
黄 基旭 (ふあん ぎうく)
TEL&FAX: 022-795-6872
E-mail: secretariat@jsot2012.com

12. 年会 HP

<http://www.jsot2012.com>

◆同時期開催のご案内◆

第 6 回アジア毒性学会学術集会 (ASIATOX-VI)

日時: 2012 年 7 月 17 日 (火) ~ 20 日 (金)

会場: 仙台国際センター

会長: 永沼 章 (東北大学大学院薬学研究科)

学術集会 HP: <http://www.asiattox-vi.com>

※学会参加費などの特典がありますので, 是非
ご参加ください!

第6回アジア毒性学会学術集会 (ASIATOX-VI) のご案内 (第2報)

※第39回日本毒性学会学術年会と同時期開催いたします。

1. 日時

2012年7月17日(火)～20日(金)

2. 会場

仙台国際センター

〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地

TEL: 022-265-2211 (代表)

URL: <http://www.sira.or.jp/icenter/>

3. 年会長

永沼 章 (東北大学大学院薬学研究科)

TEL: 022-795-6870

4. テーマ

『環境物質をはじめとする様々な化学物質, 医薬品, 金属や天然物のリスクと恩恵』

5. 会議使用言語

英語

6. 組織委員 (敬称略)

会長: 永沼 章 (東北大学)

事務局長: 熊谷 嘉人 (筑波大学)

財務委員: 中村 和市 (塩野義製薬株式会社)

西田 信之 (武田薬品工業株式会社)

総務委員: 黄 基旭 (東北大学)

新開 泰弘 (筑波大学)

高橋 勉 (東北大学)

広瀬 玲子 (筑波大学)

国際委員:

【日本】 Tetsuo Satoh (Chiba University)

【韓国】 Byung-Moo Lee (Sungkyunkwan University)

【中国】 Jun-Shi Chen

(Chinese Center for Disease Control and Prevention)

【台湾】 Min-Liang Kuo

(National Taiwan University)

Jou-Fang Deng

(Taipei Veterans General Hospital)

【タイ】 Songsak Sriamujata (Mahidol University)

国際プログラム委員:

【日本】 Ikuo Horii (Pfizer Inc.)

【韓国】 Young-Jin Chun (Chung-Ang University)

【中国】 Shuang-Qing Peng

(Institute of Disease Control and Prevention AMMS)

【台湾】 Pinpin Lin

(National Health Research Institutes)

【タイ】 Malyn Chulasiri (Mahidol University)

国内委員: 堀井 郁夫 (ファイザー株式会社)

菅野 純 (国立医薬品食品衛生研究所)

鍛冶 利幸 (東京理科大学)

三森 国敏 (東京農工大学)

務台 衛 (田辺三菱製薬株式会社)

中村 和市 (塩野義製薬株式会社)

西田 信之 (武田薬品工業株式会社)

野村 護 (株式会社イナリサーチ)

落合 敏秋 (日本エスエルシー株式会社)

大野 泰雄 (国立医薬品食品衛生研究所)

下村 和裕 (第一三共株式会社)

菅井象一郎 (日本たばこ産業株式会社)

杉本 哲朗 (中外製薬株式会社)

天間 恭介 (北里大学)

遠山 千春 (東京大学)

津田 修治 (岩手大学名誉教授)

山田 久陽 (大正製薬株式会社)

山添 康 (東北大学)

吉田 武美 (昭和大学名誉教授)

7. プログラム (予定)

1) 特別講演, 教育講演 (第39回日本毒性学会学術年会)

第39回日本毒性学会学術年会との合同プログラムとなります。詳細は年会プログラムをご参照下さい。

2) シンポジウム

- ・ Advances in clinical toxicology
- ・ Drug abuse
- ・ Molecular toxicology: update
- ・ Mutagenesis and carcinogenesis of drugs, metals and industrial chemicals
- ・ Nanotoxicology
- ・ Natural products as chemopreventive agents
- ・ Oxidative stress: risk and benefit
- ・ Radiotoxicology: risk assessment
- ・ Regulatory Sciences in Asia: Current and future aspect of regulatory sciences in each country
- ・ Toxicological aspects in consumer products

3) 一般演題 (ポスター)

8. 一般演題

- 1) 一般演題 (ポスター) を募集します。日本毒性学会会員の区別なく、どなたでも応募できます。
- 2) 演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみです。下記9に記載する「演題登録要領」を参照の上、第6回アジア毒性学会学術集会 HP から登録して下さい。
演題申込締切日：
2012年3月5日(月)午後1:00(予定)
- 3) 一般演題はポスターのみです。第39回日本毒性学会学術年會に応募した演題を英語に変えてのご応募が可能となりますので、是非ご登録下さい。ポスター討論は、7月20日(金)を予定しています。詳細については学術集会 HP にて追ってご案内いたします。
- 4) Young Investigators' Award(若手優秀研究賞)
2012年4月1日の時点で40歳以下の方を対象とします。 応募者は演題申込時にその旨登録して下さい。受賞者の発表は懇親会にて行います。受賞者(最大6名)には賞状と賞金5万円を授与します。
- 5) Poster Award (ポスター賞)
2012年4月1日の時点で40歳以下の方を対象とします。 応募者は演題申込時にその旨登録して下さい。受賞者には賞状を授与します。

9. 演題登録要領

演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみです。締め切り間際はアクセス集中によりサーバ処理能力が極端に低下します。そのため、登録に時間を要する、あるいは登録が完了できないといった事態が生じることが予測されますので、演題募集要項と学術集会 HP を熟読した上で、余裕をもって登録して下さい。

◆登録方法ならびに登録確認・修正◆

学術集会 HP (<http://www.asiattox-vi.com>) にアクセスし、演題募集のメニューより案内に従って、次の流れのように登録を進めて下さい。なお、演題登録は発表者本人が行って下さい。

発表者個人情報登録→共著者・演題情報登録→登録内容確認→登録完了

※第39回日本毒性学会学術年會と同じID、パスワードでのご登録が可能となりますので、是非両学会に演題をご登録下さい。

10. 参加登録および参加費

事前参加申込締切日：

2012年5月22日(火)午後1:00(予定)

- 1) 参加費

一般	25,000円	(当日 32,000円)
学生	10,000円	(当日 13,000円)
同伴者	10,000円	(当日 13,000円)

 (第39回日本毒性学会学術年會・ASIATOX-VI参加証、第39回日本毒性学会学術年會・ASIATOX-VIプログラム・講演要旨集、懇親会費、ASIATOX-VI ウェルカムレセプションを含む)
- 2) 振込み方法

クレジットカード

※お振込等の詳細については学術集会 HP にて追ってご案内いたします。

11. 懇親会

7月18日(水)に懇親会を開催いたしますので、是非ご参加下さい。なお、懇親会は第39回日本毒性学会学術年會と合同で開催いたします。

会場：メトロポリタンホテル仙台(仙台駅直結)
時間：午後6時より(予定)

参加費：上記参加費に含みます。

12. ランチョンセミナー等の募集

ランチョンセミナースポンサー、広告掲載、展示
出展を募集します。詳細は学術集会 HP ([http://
www.asiattox-vi.com](http://www.asiattox-vi.com)) にて追ってご案内いたしま
す。お問い合わせ、お申込につきましては、学術
集会事務局までご連絡下さい。

13. 学術集会事務局

〒 305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1
筑波大学医学医療系 環境医学分野
熊谷 嘉人, 新開 泰弘, 広瀬 玲子
TEL : 029-853-3133 FAX : 029-853-3259
E-mail : secretariat@asiattox-vi.com

14. 学術集会 HP

<http://www.asiattox-vi.com>

第13回日本毒性学会生涯教育講習会案内

日本毒性学会

教育委員会委員長

鍛冶 利幸

生涯教育小委員会委員長

鈴木 雅実

本講習会は一日で3コース学習するフレームに改変し「①トピックス：新しい科学及び技術に関する最新のトピックスを学習する。②臓器毒性：各種臓器の毒性反応についてメカニズムを含め深く学習する。③SD育成講座：試験責任者として試験結果の解釈・理解・評価を深める為の知識を学習する。」ニーズに応じて受講者が選択できる新講習体系に致しました。2012年は①「トピックス：新しいアプローチ」、②「臓器毒性：神経系・循環器系」、③「SD育成講座：非病理学者のための病理学講義」について講義していただきます。非会員の方も参加できます。

なお、本講習会は、JSOT認定講習会となっており、認定トキシコロジスト認定試験受験資格の評点獲得、および認定トキシコロジスト資格更新の際の評点獲得の対象となります。詳細はJ. Toxicol. Sci. またはホームページの『認定トキシコロジストの認定制度規定』をご覧ください。

受講を希望される方は、右記の参加申込方法でお申し込み下さい。参加費入金の確認後、追って受講案内及び資料をお送り致します（6月下旬頃）。

1. 日 時

2012年7月16日（月）

①トピックス：新しいアプローチ 10：00～13：00
 毒性試験における最新の手法・技術の導入
 ：新しい科学進展に伴う科学的技術
 -米国SOT学会でのContinuing Education Courseの議題をもとに-

五十嵐勝秀 先生（国立医薬品食品衛生研究所）
 鈴木 睦 先生（協和発酵キリン株式会社）

休 憩（13：00～14：00）

②臓器毒性：神経系・循環器系 14：00～17：00
 最新の科学を含めて毒性発現メカニズムをin vitro及びin vivoから解説し、試験法及び結果の解釈について学習する

神経系：ガイドラインに基づいた脳神経系の安全性評価を中心に（仮題）

高橋 宏明 先生（日本たばこ産業株式会社）
 循環器系：薬物誘発性循環器毒性

-機能的および器質的变化について-
 千葉 克芳 先生（第一三共株式会社）

③SD育成講座 17：00～18：00
 ：非病理学者のための病理学講義

IUTOXでのContinuing Education Courseの議題をもとに

鈴木 雅実 先生（中外製薬株式会社）

2. 会 場

ホテルメトロポリタン仙台

〒980-8477 宮城県仙台市青葉区中央一丁目1-1)

※別会場にて認定トキシコロジスト懇親会を開催致します。認定トキシコロジストの先生方のご参加をお待ちしております。

日 時：18：30～20：30（予定）

会 場：ホテルJALシティ仙台 レストラン ジョリー

〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院1-2-12)

会 費：3,000円（当日4,000円*）

定 員：70名

3. 参加申し込みおよび参加費

1) 申込期間

2012年3月1日（木）～6月8日（金）

2) 申込方法

会員の方は本号に同封の郵便振替用紙に必要事項をご記入の上お申し込み下さい。

非会員の方は郵便局備付けの郵便振替用紙に氏名、所属、受講案内送付先住所、連絡先電話番号をご記入の上、下記振替口座までお振込み下さい。

振替口座番号：00150-9-426831

加入者名：日本毒性学会

3) 参加費（1日フルコースとして設定）

会 員 5,000円（当日7,000円）

非会員 7,000円（当日10,000円）

認定トキシコロジスト 3,000円（当日5,000円）

*お振込みいただきました参加費は、理由のいかんにかかわらず返金致しませんのでご了承下さい。

*領収書につきましては、振込時の振替払込請求書兼受領証に代えさせていただきます。

*認定トキシコロジスト懇親会にご参加される場合は合算金額をお振込ください。（当日の受付人数は、定員等により制限させていただきます。）

準備の都合上、出来るだけ事前申込をお願いします。

4. 問い合わせ先

日本毒性学会教育委員会

〒160-0016 東京都新宿区信濃町35 信濃町煉瓦館

（財）国際医学情報センター内

TEL：03-5361-7075 / FAX：03-5361-7091

e-mail：educ-group@umin.ac.jp

日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第2報）

本学会教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。詳細は決まり次第、学会ホームページおよび The Journal of Toxicological Sciences (J. Toxicol. Sci.) 学会情報頁でお知らせします。

なお、学会主催講習会の開催目的を明確化させ、昨年度から毒性学に関する知識（基礎知識）を幅広く学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとしての知識をアップデート・ブラッシュアップする生涯教育講習会として位置付けすることを基本方針と致しました。

「第15回日本毒性学会基礎教育講習会」

本講習会は認定トキシコロジストの系統的な基礎教育、あるいは再教育を目的としております。集中講義によって毒性学全般にわたる理解を深めたいうで、秋季に開催されます第15回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験受験にお役立て下さい。3日間をかけて10名ほどの先生方に講義していただきます。

1. 日 時

2012年8月6日（月）～8日（水）

2. 会 場

東京大学農学部 1号館

3. 参加費

一般会員：25,000円

学生会員：10,000円

非会員：35,000円

認定トキシコロジスト：20,000円（2～3日受講）
10,000円（1日受講）

4. テキスト

「[新版] トキシコロジー」（朝倉書店、2009年刊）の内容を中心に講義を行います。参加者はあらかじめ書店等で購入することをお勧めします。

正誤表は学会ホームページに掲載されています。

「第15回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験」

我が国の安全性試験の信頼性向上と毒性学の進歩に寄与するため、質の高い専門家を認定するための認定試験です。書類審査で受験資格を得た上で、受験して下さい。

受験資格に関する詳細は本号の J. Toxicol. Sci. 学会情報ページ、学会ホームページの『日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定』をご覧ください。（会員歴では2009年以前に入会された方に受験資格がございます。入会年についてご不明の方は教育委員会までお問い合わせ下さい。）

1. 日 時

2012年9月30日（日）

2. 会 場

昭和大学 旗の台キャンパス

3. 受験料

30,000円

4. 問い合わせ先

日本毒性学会教育委員会

〒160-0016 東京都新宿区信濃町35 信濃町煉瓦館
(財)国際医学情報センター内

TEL：03-5361-7075 / FAX：03-5361-7091

e-mail：educ-group@umin.ac.jp

第 38 回日本毒性（トキシコロジー）学会学術年会要旨集の販売について

第 38 回日本毒性（トキシコロジー）学会学術年会の要旨集を 1 部 3,500 円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第 32 回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です（http://www.jstage.jst.go.jp/browse/toxp/_vols/-char/ja）。

振込先：口座番号	00150-9-426831
口座名	日本毒性学会
要旨集価格	3,500 円（1 部）

通信欄記入事項：①住所 ②氏名（団体の場合は機関名・部署等）③電話番号
④第 38 回学術年会要旨集希望の旨
※通信欄のご記入住所へ送本いたします。詳細なご記入をお願いいたします。

問い合わせ先：日本毒性学会事務局
〒160-0016 東京都新宿区信濃町 35 信濃町煉瓦館
（財）国際医学情報センター内
TEL：03-5361-7075 FAX：03-5361-7091
E-mail：jsot@imic.or.jp

その他のお知らせ

第5回応用トキシコロジー リカレント 講座開催案内

本講座は産業界、規制当局、アカデミアにおいて安全性研究にたずさわる研究者を対象にして、創薬から申請までの医薬品安全性評価の実際について最新の研究から実務に関する話題まで、幅広く勉強する場を提供することを目的としております。

5回目の開催となります本年は、平成24年3月22日と23日の2日間、東京農工大学農学部にて開催いたします。多数ご参加いただけますようご案内申し上げます。

尚、本講座は日本毒性学会認定トキシコロジスト制度の認定講習会となっております。

期 日 2012年3月22日(木)～23日(金)2日間
場 所 東京農工大学農学部 第一講義棟の24番講義室
〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8
<http://www.tuat.ac.jp/index.html>

主 催 東京農工大学大学院 農学研究院
動物生命科学部門 病態獣医学研究分野
教授 三森 国敏

協 賛 日本毒性学会

後 援 日本製薬工業協会(製薬協)

3月22日(木)
10:00 開催の挨拶:三森 国敏(東京農工大学)
10:10 事例研究の解説:佐神 文郎(製薬協)
10:20 化学物質と神経発達:渋谷 淳(東京農工大学)
11:20 毒性病理学の現状と問題点:
大石 裕司(アステラス製薬)
13:15 ICH S1A ガイドライン見直しの現状:
久田 茂(あすか製薬)
コメンテーター 中江 大
(東京都健康安全研究センター, 東京農業大学)
14:15 反応性代謝物と安全性評価:
山崎 浩史(昭和薬科大学)
15:30 遺伝子多型と毒性発現:
齋藤 嘉朗(国立医薬品食品衛生研究所)
16:30 医療現場からみた医薬品の副作用:
北田 光一(千葉大学)
18:00 - 20:00 意見交換会 @ ホテル コンチネンタル

3月23日(金)
10:00 内因性ガス状伝達物質一酸化窒素, 一酸化炭素,
硫化水素の産生機構と相互作用:
吉田 武美(公益社団法人 薬剤師認定制度認証
機構, 昭和大学名誉教授)
11:00 ICH M3 (R2) Q&A:
篠田 和俊(医薬品医療機器総合機構)
12:45 薬物依存と薬物依存性試験:
若狭 芳男(㈱イナリサーチ)
カニクイザルの精巢の発達:
春山 恵美子, 大島 洋次郎(㈱新日本科学)
14:00 医薬品の承認申請と安全性評価(事例研究を含む):
小野寺 博志(医薬品医療機器総合機構),
渡部 一人, 木村 敬(製薬協)
16:00 閉会の挨拶:三森 国敏(東京農工大学),
中村 和希(製薬協)
16:10 終 了

参加費:¥25,000(資料代, 昼食代, 意見交換会参加費を含む)

【参加方法】

1. お名前, 2. お名前のフリガナ, 3. ご所属, 4. E-mail
アドレス 以上の必要事項を, E-mailまたはFaxで三森宛
お申込みの上, 参加費を下記の銀行口座あて2012年2月
20日(金)までにお振込み下さい。

振込口座:みずほ銀行 府中支店(128)
口座番号:1338478
口座名:第5回応用トキシコロジーリカレント講座

【問い合わせ先】

東京農工大学大学院 農学研究院
動物生命科学部門 病態獣医学研究分野 教授 三森 国敏
E-mail: tox-rect@cc.tuat.ac.jp
Tel/Fax: 042-367-5771

シンポジウム モレキュラー・キラリティー アジア 2012 Symposium Molecular Chirality ASIA 2012

- Chiral Science and Technology: From ASIA to the World -

趣旨 シンポジウム「モレキュラー・キラリティー」は、結晶化・クロマトグラフィーによる光学分割、不斉合成、キラル化合物の薬理・毒性・体内動態、キラル分析、キラル材料、不斉の起源、キラル化合物の工業生産など、「モレキュラー・

キラリティー」をキーワードに分野横断的な研究発表・討論の場として、1992年よりほぼ毎年開催されて参りました。20周年を迎える今回、中心となる参加者の対象地域をアジアに広げ、シンポジウム「モレキュラー・キラリティーアジア 2012」として開催致します。

主催 MCRO (Molecular Chirality Research Organization)
共催 高分子学会, 日本化学会, 日本薬学会, 日本分析化学会, 日本薬物動態学会, 日本毒性学会, 日本農芸化学会
協賛 有機合成化学協会
会期 5月17日(木), 18日(金)
会場 九州大学医学部百年講堂
 (〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1番1号)
交通 地下鉄箱崎線 馬出九大病院前 下車 徒歩5分

プログラム

招待講演 Xinhua Wan (Peking Univ., China), Shunai Che (Shanghai Jiaotong Univ., China), Myung Ho Hyun (Pusan National Univ., Korea), Kyu-Sung Jeong (Yonsei Univ., Korea), Hiroshi Honma (Kitasato Univ., Japan), Masahiro Terada (Tohoku Univ., Japan), Ivan Huc (Institut Européen de Chimie et Biologie, France), Gerard Roelfes (Univ. of Groningen, the Netherlands) 一般口頭発表 (15件程度), ポスター発表 詳細はHPをご覧ください。

発表形式 口頭およびポスター (発表言語: 英語, 日本語)
発表申込方法 詳細はHPをご覧ください。
発表申込締切 2月29日(水)
要旨提出締切 3月22日(木)
参加費 一般7,000円(当日9,000円), 学生4,000円(当日5,000円), 申込はHPからお願いします。
懇親会 一般7,000円, 学生4,000円, HPから事前に申込をお願いします。
事前参加登録, 参加費等払込締切 4月5日(木)
オーガナイザー 徳島文理大学香川薬学部 東屋 功
 九州大学大学院薬学研究院 浜瀬 健司

問合先

〒769-2193 さぬき市志度 1314-1 徳島文理大学香川薬学部
 Molecular Chirality ASIA 2012 実行委員会事務局
 Tel : 087-894-5111 Fax: 087-894-0181
 E-mail : mc2012@chiralcrystal.net
 URL : http://www.chiralcrystal.net/mc2012/

**第19回 HAB 研究機構学術年会
 創薬開発の迅速化を目指して**

— 探索的 IND 試験とトランスレーショナル研究の進展 —

学術年会長 泉 高司 (第一三共株式会社)
日時 2012年5月18日(金)・19日(土)
会場 昭和大学 上條講堂

プログラム概要

特別講演

薬物相互作用 (DDI) についての新しいガイダンス案について (仮)

Shiew-Mei Huang, PhD (FDA, USA)

招待講演 I

—細胞高速分子分析技術が開く創薬・生命科学イノベーション
 升島 努先生 (広島大学大学院)

招待講演 II

創薬開発の迅速化を目指して — 国立がん研究センターにおけるファーストインマン試験の体制整備 —
 藤原 康弘先生 (国立がん研究センター中央病院)

シンポジウム I

「トランスレーショナル研究の進展」

タンパク質の高感度同時絶対定量法を用いた創薬科学の新展開

寺崎 哲也先生 (東北大学大学院)

ヒト組織を用いた腎・消化管における薬物輸送ならびに相互作用の予測

楠原 洋之先生 (東北大学大学院)

in vitro/in vivo アプローチによる薬物肝取りこみトランスポーターの評価およびトランスレーショナルリサーチへの展開

今岡 知己先生 (第一三共株式会社)

がん薬物療法におけるバイオマーカー — 個別化医療に向けて —
 西尾 和人先生 (近畿大学医学部)

シンポジウム II

「創薬への応用を目指した各種細胞テクノロジーの進展」

創薬のための新規細胞アッセイ技術

金森 敏幸先生 (産業技術総合研究所)

ヒト消化管手術検体を利用した薬物吸収性評価

三宅 正晃先生 (大塚製薬株式会社)

サンドイッチ培養肝細胞を用いた胆汁排泄の in vivo 予測の検証 (仮)

中仮屋 匡紀先生 (武田薬品工業株式会社)

HepaRG 細胞およびヒト化マウス (Tg マウス / P X B ® マウス) を用いた酵素誘導評価
長谷川 真絹先生 (協和発酵キリン株式会社)

シンポジウムⅢ

「早期探索的臨床試験におけるヒト組織を用いた in vitro 試験の重要性」

早期探索的臨床試験におけるヒト組織を用いた in vitro 試験の重要性

杉山 雄一先生 (東京大学大学院)
MD 試験のアベイラビリティ (F) 測定値から治療投与量での F の予測における in vitro 試験の重要性

山下 伸二先生 (摂南大学薬学部)
MD 試験と in vitro 試験の活用による薬物間相互作用の予測

前田 和哉先生 (東京大学大学院)
肝臓への取り込み、胆汁排泄を PET イメージングで捉える: In vitro 試験との併用の重要性

木村 寛之先生 (京都大学放射性同位元素総合センター)
企業からの期待 (仮)

中井 康博先生 (大正製薬株式会社)

シンポジウム:

「免疫毒性学研究的の進歩 (仮題)」

坂部 貢 (東海大医学部基礎医学系生体構造機能学領域)

石渡 賢治 (東京慈恵会医科大学熱帯医学講座)

西村 泰光 (川崎医科大学衛生学教室)

ワークショップ, 一般演題 (口演・ポスター) を予定

*年会において優秀な一般演題を発表した会員に対し、「年会賞」並びに「学生・若手優秀発表賞 (28 歳以下)」を贈呈します。

一般演題発表形式 PC プロジェクターによる口頭発表とポスター発表

演題募集期間 平成 24 年 4 月 16 日 (月) ~ 6 月 25 日 (月) (予定)

年会長 柳澤 裕之 東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座

事務局

宮越 雄一, 小岩井 利一

東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座内

第 19 回日本免疫毒性学会事務局

TEL: 03-3433-1111 (内線 2266)

FAX: 03-5472-7526

e-mail: jsit19@jikei.ac.jp

学術大会 HP: <http://jsit19.umin.ne.jp>

第 19 回日本免疫毒性学会学術大会 (JSIT2012)

日本免疫毒性学会の第 19 回学術大会を下記の要領で開催いたしますので、ご案内申し上げます。

期 日 平成 24 年 (2012 年) 9 月 15 日 (土) ~ 16 日 (日)

会 場 東京慈恵会医科大学 大学 1 号館講堂
東京都港区西新橋 3-25-8
(交通: JR 新橋駅徒歩 12 分, 地下鉄都営三田線御成門駅徒歩 3 分)

テーマ 免疫毒性疾患の新しい様相

内 容

特別講演:

「日本免疫毒性学会の発足の趣旨と 20 周年に向けての提言 (仮題)」
大沢 基保 (食品薬品安全センター 秦野研究所)

教育講演 1:

「免疫毒性の観点からみた生活習慣病の病態 (仮題)」
宮崎 徹 (東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター 分子病態医科学)

教育講演 2:

「免疫毒性の観点からみた疲労の病態 (仮題)」
近藤 一博 (東京慈恵会医科大学ウイルス学講座)

J. Toxicol. Sci. 投稿規定

The Journal of Toxicological Sciences (略称: J. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質をはじめ様々な物質の毒性とその発現機構, 生体応答, 安全性評価, 分析法など毒性学全般にわたる研究成果を掲載する学術雑誌である。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。なお, 投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article: 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。文字数の制限はない。
- (2) Letter: 原則として刷り上がり3頁以内。公表する価値は十分あるもののOriginal Articleとしてはデータの的に不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象, ネガティブデータだが学術的重要性が高いと思われる知見などを掲載する。
- (3) Toxicogenomics/proteomics Report: 刷り上がり3頁以内。毒性や生体応答に関わる遺伝子および蛋白質に関する独創的な知見を掲載する。対象となる物質によって発現量が変動する遺伝子群 (または蛋白質群) に関するデータ (DNA アレイ分析の結果など) や毒性発現に影響を与える遺伝子 (または蛋白質) の同定などが該当する。DNA アレイ分析結果などは1つの物質について1論文, 毒性発現に関わる遺伝子の同定は1つの遺伝子について1論文とすることができる。また, 毒性に関わる遺伝子の新たな多型の発見や, 既存の遺伝子多型と薬効等との関連性を検討した結果 (ネガティブデータでも可) なども掲載対象とする。本論文種は情報提供を目的としたものなので, 考察や意義付けが十分にされていなくても良い。
- (4) Review 及び Minireview: 編集委員会が執筆を依頼する。興味深い最新の知見を全般的に紹介する総説を Review とし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説を Minireview とする。Review は頁数に制限を設けませんが, Minireview は刷り上がり3頁以内とする。
- (5) Special Issue: 一冊買い上げの形で研究成果等を本誌の Special Issue として発行することができる (原則として50ページ以上)。詳細については電子メールで編集部にお問い合わせのこと。

2. 原稿の構成

A4判に上下左右に2cmの余白を取り, 11ポイントの活字でシングルスペースで記述する。刷り上がりページ数が定められている論文種の場合は, 刷り上がり1頁の文字数がスペースを含めて約4,700字となることを考慮して原稿を作成する。表題頁を1頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第1頁 (表題ページ) に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title (スペースを含めて70文

字以内), カテゴリー (下記3参照) を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mail アドレス (必須) を記載し, さらに, 英文チェックを受けたネイティブスピーカーの氏名 (または会社名) 及び住所を記入する。

- (2) 第2頁に250語以下のアブストラクト及び3~6語のキーワードを記す。アブストラクトは改行しない。
- (3) 第3頁以後にIntroduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Referencesの順番で本文を記述する。ResultsとDiscussionをまとめてResults and Discussionとして記述してもよい。
- (4) 略語: 初出時に一旦スベルアウトし, その直後に略語を () 内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。µm, mm, cm, m, Å, µg, mg, g, kg, µl, ml, l, mmol, mol, µM, mM, M, ppm, mol/l, mg/ml, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, °C.
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市 (州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いてA4判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける (例, Table 1)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は1つずつA4判1ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける (例, Fig. 1)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめてLegendsとして記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を () 内に記す [例, (Smith, 1999) または (Jones and Cohen, 2003)]。著者が3名以上の場合には筆頭著者のみを表示する [例, (Smith et al., 2004)]。引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾にReferencesとして一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外はChemical Abstractに準ずる。

(例)

Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005): The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.

Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003): The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.

(10) Supplemental Data：一部のデータ（Methodの詳細、追加データ、DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など）をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができる。Supplemental Dataはオンライン版にのみ掲載される。

3. カテゴリー

第1頁（表題ページ）に下記の中から該当するカテゴリー（5つ以内）を選んで、関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 薬物中毒 C8 薬物依存性 C9 細胞毒性 C10 酸化ストレス C11 炎症
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 オミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」（1964年発行、2002年改訂：<http://www.wma.net/e/policy/b3.htm>）の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」（http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/seimei/genomeshishin/）に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした

論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 投稿原稿の送付

原稿はオンライン投稿システム（<https://www.e-kenkyu.com/jtoxicol-sci/>）から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿はMicrosoft WordファイルまたはPDFファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

7. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Wordで作成した最終原稿（本文および表）ファイルと図のファイルを提出する必要がある。
- (2) 著者校正を1回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。

8. Executive Editors

若干名のExecutive Editorをおく。Executive Editorの選考は編集委員会に設けられたExecutive Editor小委員会が行う。Executive Editorが責任著者になっている論文またはExecutive Editorが推薦する論文は編集委員会の審査を受けることなく採用する。Executive Editorはこれらの論文を編集部に送付する前に、自身と所属の異なる2名の専門家に査読を依頼しなければならない。掲載論文にはその論文を投稿または推薦したExecutive Editorの氏名が記載される。

9. 掲載料

掲載料は以下の表を参照のこと（消費税別）。別刷は別途申し受ける（有料：実費）。請求書は発行後に責任著者宛に送付する。

	掲載料（円／頁）	カラー写真 ^c （円／頁）
Original Article	6,000	40,000
Letter	12,000 ^a	40,000
Report ^b	16,000	40,000
Special Issue	20,000	40,000
招待総説	無料	20,000

^a：4頁目からは16,000円／頁。 ^b：Toxicogenomics/proteomics Report。 ^c：図等も含む。

動物実験に関する日本毒性学会指針

昭和 60 年 7 月 10 日制定
平成 2 年 6 月 12 日採諾
平成 18 年 1 月 13 日改訂
平成 18 年 7 月 2 日改訂
平成 24 年 1 月 1 日改訂

1. 目的

動物実験に関する本学会指針は、日本毒性学会会員が、動物実験を計画実施する際に「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」（平成 18 年 6 月 1 日文科科学省告示第 71 号）、「厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針について（通知）」（平成 18 年 6 月 1 日科発第 0601005 号）あるいは「農林水産省の所管する研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（通知）」（平成 18 年 6 月 1 日 18 農会第 307 号）に定められている事項のほか、遵守すべき基本的事項を定め、科学的、倫理的観点から適正な実験動物の飼養と動物実験を実施することを目的とする。

2. 適用範囲

この指針は会員によって行われる実験動物を用いる全ての動物実験に適用されるものとする。

3. 動物実験の取り扱い

動物実験は適正に整備、管理された実験動物施設において飼育、管理方法に関する知識を十分にもって取り扱いがされなければならない。また、適切な飼育環境（ケージの大きさ、収容動物数、温湿度、照明など）のもとに実験を計画しなければならない。

4. 実験実施上の配慮

実験の実施は動物福祉の立場から、動物の不安や苦痛を極力軽減するよう努めなければならない。また、研究目的の達成に必要な範囲において、動物実験に代わる方法を利用することを考慮する。動物実験が必要な場合には、必要な最小限の実験にとどめ、適正な動物種の選択、使用動物数および実験方法について十分な配慮が必要である。

5. 実験終了後の処置

実験終了後の動物の取り扱いについては「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」（平成 18 年 4 月 28 日環境省告示第 88 号）に従い動物をすみやかに苦痛から開放するように努めなければならない。

6. 安全管理上の配慮

物理的、化学的に注意を要する試料、または病原体を用いた動物実験を実施する場合には、施設管理者と協力し、一般留意事項、関係規則等を遵守して、安全の確保及び環境汚染の防止のため十分な処置を講じなければならない。

7. その他

本指針に示されていない必要事項については、会員の所属する各研究機関における動物実験に関する諸規定および「動物の愛護及び管理に関する法律の一部を改正する法律」（平成 17 年 6 月 22 日 法律第 68 号）を遵守するものとする。

付 則

本規定は平成 24 年 1 月 1 日から施行する。

日本毒性学会会則

昭和 55 年 6 月 6 日制定	平成 17 年 6 月 30 日改訂
昭和 56 年 6 月 12 日改定	平成 18 年 7 月 4 日改定
昭和 60 年 11 月 16 日改訂	平成 19 年 1 月 16 日改定
平成 9 年 7 月 24 日改定	平成 21 年 7 月 7 日改定
平成 10 年 6 月 18 日改定	平成 22 年 6 月 17 日改定
平成 15 年 7 月 19 日改定	平成 24 年 1 月 1 日改定

第一章 総 則

第 1 条

本会は日本毒性学会 (The Japanese Society of Toxicology) と称し、JSOT と略称する。

第 2 条

本会は事務局を東京都新宿区信濃町 35 信濃町煉瓦館 財団法人国際医学情報センター内に置く。

第二章 目的および事業

第 3 条

本会は毒性学領域の研究の進歩発展を図ることを目的とする。

第 4 条

本会は前条の目的を達するため次の諸事業を行う。

1. 学術集会の開催
2. 会誌の発行
3. トキシコロジストの教育および資格認定
4. その他本会の目的達成に必要な事業

第三章 会 員

第 5 条

本会の会員は次のとおりとする。

1. 一般会員
2. 学生会員
3. 名誉会員
4. 功労会員
5. 賛助会員

第 6 条

一般会員は毒性学領域の研究活動に従事し、会員としての資格を認められたものとする。一般会員は総会における議決権を有する。評議員は学会役員の見学権、被選挙権および総会における議決権を有する。

第 7 条

学生会員は毒性学領域の学部あるいは大学院に在籍するもので、学生会員としての資格を認められたものとする。

第 8 条

第 5 条に規定する名誉会員および功労会員は、別に定める名誉会員および功労会員の推薦規定の基づき、理事・評議員の推薦により、理事会の議を経て総会で決定されるものとする。名誉会員および功労会員は評議員会に出席できるが、議

決権は持たない。

第 9 条

賛助会員は本会の事業を援助する団体および個人とする。尚、団体は賛助会員としては所属できるが、一般会員として所属することはできない。

第 10 条

一般会員、学生会員、名誉会員および功労会員は会誌 (Supplement を除く) の 配布を受け、また会誌および学術集会に研究成果を発表し、学会が行うその他 の事業に参加することができる。賛助会員は会誌 (Supplement を除く) の配布をうけ、本会ホームページ上に賛助会員名と URL が掲載される。

第 11 条

一般会員の年会費は 7,000 円、ただし第 1 4 条に定めた評議員の年会費は 10,000 円、学生会員の年会費は 3,000 円とし、名誉会員および功労会員は会費納入の義務はないものとする。賛助会員の年会費は 100,000 円 (1.0 口) 以上とし、賛助会員の希望により 0.2 口単位で増やすことができる。会費は各年度の初めに納入するものとする。

第 12 条

会員は次の場合には会員の資格を喪失する。

1. 退会の届出をしたとき。
2. 会費を 2 年度分以上延滞し、かつ催告に応じないとき。

第四章 役 員

第 13 条

本会には次の役員をおく。

理事長	1 名
年会長	1 名
理 事	20 名以内
監 事	2 名
評議員	若干名

第 14 条

年会長は理事会、評議員会の推薦により総会の承認を得て選出される。理事および監事は別に定める理事・監事選出規定により選出され、総会の承認を得る。理事長は理事の互選により選出される。理事長は、前期理事長および本会の運営に必要な 2 名以内の評議員を理事に指名することができる。評議員は別に定める評議員選出規定により選出される。

第 15 条

理事長は本会を代表し会務を掌理する。理事は理事会を組織し、会務を執行する。

第 16 条

年会長は学術年会を主宰し、評議員会および総会の議長となる。また年会長は第 19 条に規定する任期の間は理事会に出席するものとする。

第 17 条

監事は会計を監査する。また、理事会に出席して意見をのべることができる。

第 18 条

評議員は評議員会を組織し、本会の運営に必要な諸事項を審議する。

第 19 条

役員任期は 1 月 1 日より始まり 2 ヶ年とする。ただし年会長の任期は前年度の学術年会終了の翌日より当該年度の学術年会終了の日までとする。

第五章 会 議

第 20 条

本会には総会、評議員会、理事会を置く。

第 21 条

総会は一般会員および学生会員によって構成され、理事長の召集により開催される。

第 22 条

評議員会、理事会は理事長の召集により開催される。理事現在数の 2 / 3 以上から会議に付議すべき事項を示して理事会の開催を要求されたときは、理事長はその請求があった日から 30 日以内に理事会を召集しなければならない。

第 23 条

理事長は評議員会および総会の承認を得て委員会を設けることができる。委員は評議員の中から理事長が委嘱する。

第六章 会 計

第 24 条

本会の年度は 1 月 1 日に始まり、12 月 31 日に終る。

第 25 条

本会の経費は、本会会費、各種補助金、寄付金、その他をもって充てる。

第 26 条

収支の決算および予算は、評議員会の議を経て総会の承認を得なければならない。

第七章 雑 則

第 27 条

本会則を変更するには、評議員会の議を経て総会の承認を得なければならない。

第 28 条

本会則の実施に関する必要な事項は別に定める。

付 則

平成 24 年 1 月 1 日改訂の本会則は同日から施行する。

日本毒性学会評議員選出規定

昭和 56 年 6 月 12 日制定
平成 2 年 6 月 13 日改定
平成 9 年 7 月 24 日改定
平成 10 年 6 月 18 日改定

平成 20 年 6 月 27 日改定
平成 21 年 7 月 7 日改定
平成 24 年 1 月 1 日改定

第 1 条

評議員は評議員候補者を推薦することができる。候補者の資格は、会員歴が原則として 5 年以上であり、かつ、毒性学会関連領域における研究歴が 6 年制大学卒業者では 5 年以上、4 年制大学卒業者では 7 年以上、その他の学歴を有する会員に於いてはこれに準ずる年数の研究歴を有するものとする。ただし、教育および研究機関の毒性学関係部門の教授、部長およびこれに準ずる責任者の場合は会員歴が 5 年に満たなくても差しつかえないものとする。

第 2 条

評議員候補者の推薦に際しては 4 月 30 日までに次の書類を理事長（事務局宛）に提出するものとする。

- 評議員 2 名以上の連名による推薦状（この様式にて、理事長宛（事務局）へご送付下さい。（注：コピーを 4 部添付の事））
 - 履歴書（最終学歴以降、および専門分野と専攻テーマを記載のこと）
 - 業績目録（毒性関連論文及び筆頭論文を含む）
- （以上各一通）

第 3 条

理事長は推薦された候補者について、評議員選考委員会に諮り、候補者を決定し、理事会の議を経て評議員会および総会の承認を得るものとする。

第 4 条

任期を満了する評議員の再任に際しては、理事長は当該評議員の任期中の学会への貢献度を考慮して再任候補者を決定し、理事会の議を経て評議員会および総会の承認を得るものとする。

付 記

評議員候補者は最近 5 年間に年会発表または本学会機関誌への投稿が少なくとも 1 報はあること。

業績目録その他の提出資料による研究歴の確認が困難な場合に、研究歴証明書の提出を求める場合がある。なお本証明書は所属長が作成する。

任期は評議員会及び総会で承認を受けた翌年の 1 月 1 日から翌々年の 12 月 31 日までの 2 年間とする。

再任候補者の選定は任期中の評議員会への出席の有無で判断するが、以下の活動内容も考慮する。評議員会への出席ならびにこれらの活動のいずれも認められない場合は、再任を認めない。

1. 学術年会での発表
2. 学会誌への投稿
3. 基礎教育講習会の講師
4. 学会委員会での活動

但し、海外派遣等、やむを得ない業務上ならびに社会通念上の理由により上記活動が困難な場合は、申立て書を提出すれば再任を認める。

日本毒性学会評議員推薦状（様式）

1. 候補者

生年月日（西暦）

会員番号

19 年 月 日

氏名

現職（機関名と職名）

2. 推薦者（現評議員2名の署名・捺印）

氏名

印

氏名

印

3. 研究歴 年間

研究歴証明書が必要な場合、6年制大学卒業生では5年（以上）、4年制大学卒業生では7年（以上）の研究歴を記載し添付。また、研究歴証明書の添付が困難な場合は、その理由を述べた申し立て書を添付。

4. 業績目録

別紙添付

5. 会員歴 年間（西暦 年～）

6. 備考

・過去5年間の本学会機関誌への投稿論文数 （別刷または第1頁のコピーを添付すること）	報
・過去5年間の本学術年会での発表論文数 （要旨のコピーを添付すること）	報
・上記候補者の全ての投稿論文の内、毒性関連の論文数	報

日本毒性学会理事・監事選出規定

昭和60年11月16日制定

平成9年7月24日改定

平成24年1月1日改定

第1条

理事および監事は原則として評議員の中から評議員による選挙によって選出される。ただし、理事または監事を通して連続二期務めたもの、および就任時満66歳以上のものは被選挙資格がないものとする。

第2条

第1項にもかかわらず以下に該当するものは理事となることができる。ただし、理事長となることはできない。

1. 前期の理事長
2. 会の運営に必要と判断され、理事長により指名された2名以内のもの。

第3条

理事または監事に欠員が生じ、補充の必要がある場合には次点者から繰り上げる。その任期は前任者の残余の期間とする。

第4条

第2項および第3項の規定により選出された理事または監事は、やむをえない事情がある限り、会則第13条の規定にかかわらず総会の承認を待たずに理事または監事に就任することができる。

第5条

選挙の細則は別に定めるものとする。

付 則

平成9年7月24日改訂の本規定は同日から施行する。

細 則

平成7年7月17日 平成7年度理事・監事会にて了承

1. 同一点の得票者の優先順位は生年月日順。

日本毒性学会常置委員会共通規定

平成 11 年 7 月 22 日制定
平成 12 年 6 月 29 日改定
平成 21 年 1 月 9 日改定
平成 24 年 1 月 1 日改定

第 1 条

日本毒性学会に、会則第 23 条に基づき次の委員会を置く。

1. 総務委員会
2. 財務委員会
3. 編集委員会
4. 教育委員会
5. 学術広報委員会

第 2 条

委員会委員長は理事のなかから理事長が指名する。

第 3 条

委員会委員は各委員会委員長が理事長と協議のうえ決定し、理事会の議を経て理事長が委嘱する。

第 4 条

各委員会には、理事会の承認を得て、小委員会を置くことができる。

第 5 条

小委員会委員長はその小委員会を所管する委員会委員長が理事長と協議のうえ決定し、理事会の議を経て理事長が委嘱する。

第 6 条

小委員会委員は各小委員会委員長が理事長および所属委員会委員長と協議の上、決定し、理事会の承認を得て、理事長が委嘱する。

第 7 条

各委員会、および小委員会内規は別に定める。

第 8 条

委員会委員長は必要に応じてその所管する小委員会に出席し、意見を述べることができる。

第 9 条

小委員会委員長は審議結果を所属委員会委員長に報告し、委員長は当該委員会の承認を得て、これを理事長に報告する。

第 10 条

委員会委員長、小委員会委員長および委員の任期は 1 期 2 年とし、役員の任期と連動する。但し、田邊賞選考小委員会委員の任期は別に定める。

第 11 条

本規定の変更には理事会の承認を要する。

付 則

平成 24 年 1 月 1 日改正の本規定は同日から施行する。

日本毒性学会名誉会員・功労会員推薦規定

平成 5 年 7 月 29 日制定
平成 9 年 7 月 24 日改定
平成 15 年 7 月 19 日改定
平成 17 年 6 月 30 日改定
平成 18 年 1 月 13 日改定
平成 24 年 1 月 1 日改定

第 1 条

名誉会員として推薦される者は、15 年以上の正会員歴を有する年齢満 70 歳以上の功労会員で、次の各号 1 に該当する者とする。

- (1) 毒性学の研究分野において学術上の功績が特に大である者。
 - (2) 毒性学および本会の発展に顕著な功績がある者。
2. 前項の規定にかかわらず、理事会は特段の審議を行い、特定の者を名誉会員とすることができる。

第 2 条

功労会員として推薦される者は、年齢満 65 歳以上の正会員で、次の各号 1 に該当する者とする。

- (1) 理事・監事として 3 期以上務めた者。
 - (2) 本会の理事長を務めた者。
 - (3) 本会の学術年会長を務めた者。
 - (4) 評議員として 25 年以上任期を務め、かつ、常置委員会委員または小委員会委員長を務めた者。
2. 前項の規定にかかわらず、理事会は特段の審議を行い、特定の者を功労会員とすることができる。

第 3 条

理事・評議員は名誉会員および功労会員の推薦に際して下記の書類を 4 月 30 日までに理事長に提出するものとする。

- (1) 理事・評議員 2 名以上による推薦書
- (2) 被推薦者の履歴
- (3) 推薦理由書

第 4 条

理事長は第 3 条の手続きにより名誉会員および功労会員に推薦された者について、名誉会員および功労会員選考委員会に諮って候補者を決定し、理事会の議を経て総会の承認を得るものとする。

付 則

平成 24 年 1 月 1 日改訂の本規定は同日から施行する。

日本毒性学会学会賞選考規定

平成 18 年 7 月 4 日制定

平成 19 年 6 月 28 日改正

平成 19 年 12 月 13 日改正

平成 24 年 1 月 1 日改定

第 1 条 設 置

日本毒性学会は学会賞を設ける。

第 2 条 授賞の対象

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に授与する。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

第 3 条 候補者の資格

現に 10 年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の 4 月 1 日に満 65 歳以下であるもの。

第 4 条 表 彰

授賞者数は毎年 1 名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会にて行う。

第 5 条 受賞講演

受賞者は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

第 6 条 候補者の推薦

評議員 1 名の推薦を必要とする。推薦者は、授賞候補者に関する所定書類を日本毒性学会理事長（事務局）に 12 月 31 日までに提出する。

1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（2000 字以内）
3. 学会賞の対象となる業績目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
4. 過去 5 年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

第 7 条 選 考

1. 学会賞の選考は、学術広報委員会内に設けられた学会賞等選考小委員会（7 名）が行う。
2. 選考小委員会委員長は理事長と学術広報委員長が協議の上指名し、委員は学術広報委員長と小委員会委員長が協議の上、指名する。委員の任期は 1 年とし、再任はさまたげない。
3. 候補者と同一の講座（大学以外の機関はこれに準ずる部局）に所属する者および推薦者はその年度の選考小委員会委員長及び選考委員にはならないものとする。
4. 選考小委員会は授賞者を選定し、学会賞等選考委員長は、該当者なしの場合を含めて学術広報委員長及び理事長に報告する。
5. 選考方法等に関する申し合せは別途定める。

付 則

平成 24 年 1 月 1 日改訂の本規定は同日から施行する。

日本毒性学会奨励賞選考規定

平成 18 年 7 月 4 日制定

平成 19 年 6 月 28 日改正

平成 19 年 12 月 13 日改正

平成 24 年 1 月 1 日改正

第 1 条 設 置

日本毒性学会は奨励賞を設ける。

第 2 条 授賞の対象

毒性学に関する研究において独創的な研究業績をあげつつあり、将来が期待される本会会員に授与する。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

第 3 条 候補者の資格

現に 3 年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の 4 月 1 日に満 40 歳以下であるもの。

第 4 条 表 彰

授賞者数は毎年 3 名以内とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会にて行う。

第 5 条 受賞講演

受賞者は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

第 6 条 候補者の推薦

評議員 1 名の推薦を必要とする。推薦者は、授賞候補者に関する所定書類を日本毒性学会理事長（事務局）に 12 月 31 日までに提出する。

1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（2000 字以内）
3. 奨励賞の対象となる業績目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
4. 過去 3 年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

第 7 条 選 考

1. 奨励賞の選考は、学術広報委員会内に設けられた学会賞等選考小委員会（7 名）が行う。
2. 選考小委員長は理事長と学術広報委員長が協議の上指名し、委員は学術広報委員長と学会賞等選考小委員長が協議の上、指名する。委員の任期は 1 年とし、再任はさまたげない。
3. 候補者と同一の講座（大学以外の機関はこれに準ずる部局）に所属する者および推薦者はその年度の選考委員長及び選考委員にはならないものとする。
4. 選考小委員会は授賞者を選定し、学会賞等選考小委員長は、該当者なしの場合を含めて学術広報委員長及び理事長に報告する。
5. 選考方法等に関する申し合せは別途定める。

付 則

平成 24 年 1 月 1 日改訂の本規定は同日から施行する。

日本毒性学会技術賞選考規定

平成 23 年 7 月 12 日制定

平成 24 年 1 月 1 日改定

第 1 条 設 置

日本毒性学会は、社会への実務的貢献の推進と若手育成を目的とし、技術賞を設ける。

第 2 条 対 象

日本毒性学会・技術賞は、本学会の機関誌または学術年会における発表を通して、毒性評価技術の開発において優れた貢献をした本学会会員である若手（40 才以下）研究者個人に贈られる。

第 3 条 表 彰

日本毒性学会・技術賞は、賞状および副賞とし、原則として年間 3 人以内とし、学術年会の際に表彰する。ただし適任者がいない場合は選出しないことがある。

第 4 条 選 考

- (1) 日本毒性学会・技術賞を選考するために、学術広報委員会内に技術賞選考小委員会を設ける。
- (2) 技術賞選考小委員長は理事長と学術広報委員長が協議の上指名し、委員は学術広報委員長と選考小委員長が協議の上、指名する。選考小委員長および委員の任期は 1 年とし、再任はさまたげない。
- (3) 選考小委員会は前年の機関誌または学術年会における発表などを選考の参考にして授賞者を選定する。ただし、過去の関連する発表も考慮に入れることがある。
- (4) 候補者と関連のある委員は最終選考からは辞退するものとする。
- (5) 選考小委員長は、該当者なしの場合を含めて 4 月末日までに学術広報委員長および理事長に報告する。
- (6) 技術賞に係る経費は、振興基金から支出する。

付 則

平成 24 年 1 月 1 日制定の本規定は同日から施行する。

日本毒性学会田邊賞選考規定

平成 6 年 6 月 10 日制定	平成 18 年 7 月 2 日改定
平成 9 年 7 月 24 日改定	平成 19 年 2 月 16 日改定
平成 11 年 7 月 22 日改定	平成 24 年 1 月 1 日改定
平成 14 年 6 月 19 日改定	
平成 16 年 7 月 5 日改定	

第 1 条 設 置

日本毒性学会は田邊賞を設ける。

第 2 条 対 象

日本毒性学会・田邊賞は、本学会の機関誌（Regular issue）に優れた研究、または、将来性のある研究の原著論文（Original Article）を発表した本学会会員あるいは、他の受けるに値する海外投稿者の著者全員に贈られる。

第 3 条 表 彰

日本毒性学会・田邊賞は、賞状および副賞とし、原則として年間 4 編以内とし、学術年会の際に表彰する。ただし、適任者がいない場合は選出しないことがある。

第 4 条 選 考

1. 日本毒性学会・田邊賞を選考するために、編集委員会内に日本毒性学会・田邊賞選考小委員会を設ける。
2. 選考小委員会委員長は理事長と編集委員長が協議の上指名し、委員は編集委員長と小委員会委員長が協議の上、指名する。委員の任期は 1 年とし、再任はさまたげない。
3. 選考対象者と同一の講座（大学以外の機関はこれに準ずる部局）に所属する選考委員はその年度の選考小委員会委員長にはならないものとする。
4. 選考の対象となる論文は前年の機関誌（Regular issue）に掲載された Original Article とする。
5. 学会事務局は、毎年前年度該当論文のリストを選考委員に送付する。
6. 選考小委員会は受賞候補者を選定し、本委員会委員長は、該当者なしの場合を含め、編集委員長を経て理事長に報告する。

付 則

平成 24 年 1 月 1 日改訂の本規定は同日から施行する。

ファイザー賞選考規程

平成 22 年 6 月 13 日制定

平成 24 年 1 月 1 日改定

第 1 条 設 置

日本毒性学会はファイザー賞（英名：Pfizer Highly Cited Paper Award）を設ける。

第 2 条 授賞の対象

授賞年度の 3 年前の 1 年間（1 月～12 月）に本学会の機関誌である Journal of Toxicological Sciences の Regular Issue に掲載された原著論文（Original Article, Toxicogenomics/proteomics Report, Letter）の中で、授賞年度の前年および前々年の 2 年間における被引用回数が多い論文（上位 3 編）を発表した本学会会員に授与する。

第 3 条 表 彰

3 編に賞状（会員である共著者全員）および副賞（1 編につき 15 万円：ファイザー（グローバル）が提供）を授与する。授賞式は授賞年度に開催される日本毒性学会学術年会総会で行う。

第 4 条 選考方法

ファイザー賞の選考は、以下の規定に従い編集委員長が行う。

- (1) 被引用回数は、授賞年度の 4 月 1 日の時点で Thomson Reuters 社の ISI Web of Science に公表されている値とする。
 1. ISI Web of Science による集計対象となっていない雑誌等への被引用回数は対象としない。
 2. 当該論文の著者自身が共著者となっている他論文への被引用回数は対象に含める。
 3. 第 2 条に定める「授賞年度の前年および前々年の 2 年間における被引用回数」は、ISI Web of Science に公表される当該 2 年間の被引用回数とし、実際の値と異なってもそれを考慮しない。
- (2) 選考の対象となる論文を被引用回数により順位付けし、上位 3 編を授賞論文とする。ただし、同順位に複数の論文が存在するために授賞論文を 3 編に絞ることができない場合は、それら全てを授賞論文とし、副賞（賞金）は同順位（授賞論文中の最下位）となった論文に均等配分する。
- (3) 如何なる理由においても、選考結果に対する異議は受け付けない。
- (4) 編集委員長は、選考結果を 4 月末日までに理事長に報告する。

入 会 案 内

1. 「日本毒性学会会則」を熟読の上、本会ホームページの「入会案内」(<http://www.jsot.gr.jp/about/admission.html>)より入会申請フォームでお申し込み下さい。
入会にあたり、本学会評議員1名の推薦が必要となります。学生会員として入会を希望される方は、評議員の推薦に加え、所定欄に所属研究室指導教員1名の推薦が必要です。評議員については「評議員リスト」(https://toxicol.org/users/councilor_list)をご覧ください。評議員のe-mailアドレスは評議員の先生に直接お尋ね下さい。
 2. 入会受付後、事務局より年会費の郵便振替用紙をご送付いたします。
 3. 年会費の納入が確認された時点で入会が完了し、会員として登録されます。
 4. 本会の年度は1月1日から12月31日です。
 5. 機関誌「The Journal of Toxicological Sciences」はご指定の住所宛にご送付いたします。尚、年度の途中から入会された場合、希望者には入会年の機関紙No.1からご送付いたしますので、入会申請フォームのバックナンバー欄に希望の有無のチェックを入れて下さい。
 6. 年会費および会員の種別は次の通りです。
一般会員 7,000円
学生会員 3,000円
- * 本年度入会希望の方は、12月20日までに年会費のお振込みをお願いします。それ以降にお振込みいただいた場合は、次年度入会となりますのでご了承下さい。

変 更 手 続 き

ご登録内容の変更は、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://toxicol.org/>) へログインし、「会員情報確認・変更メニュー」の「登録情報確認・変更ページへ」から手続きを行って下さい。

退会手続きは、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://toxicol.org/>) へログインし、「会員情報確認・変更メニュー」の「退会申請ページへ」より手続きを行って下さい。

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定

平成 9 年 7 月 24 日制定
平成 15 年 7 月 19 日改正
平成 19 年 1 月 16 日改正
平成 21 年 7 月 5 日改正
平成 23 年 1 月 14 日改正
平成 24 年 1 月 1 日改正

1. 目的

日本毒性学会（JSOT）は化学物質の毒性試験に関する基準（GLP）の施行に伴う安全性試験の信頼性確保の重要性に鑑みて、わが国の安全性試験の信頼性向上と毒性学の進歩に寄与するため、JSOT 認定トキシコロジストの認定制度を設けて、質の高い専門家を認定する。

2. 認定試験小委員会

認定試験を実施するため、JSOT 教育委員会の下に認定試験小委員会（以下試験委員会という）を設置する。試験委員会に関する細則は別に定める。

3. 認定試験

- JSOT 認定トキシコロジストとして認定を受けようとする者は、JSOT が行う書類審査ならびに認定試験に合格しなければならない。
- 書類審査および認定試験は試験委員会が行い、認定は理事会が行う。
- 書類審査の基準は次の通りとする。
 - 出願時に3年以上継続してJSOTの会員であること。
 - 出願時に6年制大学卒業後5年以上、4年制大学卒業後7年以上、短期大学卒業後10年以上、高等学校卒業後12年以上、およびそれ以外の者ではこれに準ずる年数の毒性学領域における実績を有する者であること。毒性学領域における実績期間には、毒性学関連の職歴および大学院等における毒性学関連の研究期間を含めるものとする。ただし、修学期間、就業期間および研究実績期間の重複は多重に

計上しない。その他、大学等への入学前の実績期間や複数の大学等での修学の取り扱い等については事務局に事前に問い合わせること。

- 別表の受験資格評点基準に従って総合点が80点以上に達していること。
- 上記のうち、基準に満たない要件があるものについても、理事長が特に認めた場合、受験資格を与える場合がある。
- 認定試験は原則として年1回実施し、筆記試験とする。
- 受験料は3万円とする。
- 資格審査および試験実施細目については別に定める。

4. 認定

- 合格者は認定を受けるために認定料を支払わなければならない。認定料は2万円とする。
- JSOT 認定トキシコロジストに適格でない事由が生じた場合、認定を取り消すことがある。

5. 認定資格更新

認定資格取得後5年毎に資格更新を行う。資格更新に関する細則は別に定める。

6. その他

この規約の変更は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則 平成 24 年 1 月 1 日改訂の本規定は同日から施行する。

(付) 日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジスト受験資格のための評点基準

種別	評点項目	参加	発表 ¹⁾
論文	毒性学関連論文 ²⁾		10 (5) / 編
学会活動	JSOT 学会	10 / 回	10 (5) / 回
	JSOT 認定学会 ³⁾	5 / 回	
	JSOT 認定講習会 ⁴⁾	5 / 回	
JSOT 主催講習会	基礎教育講習会 (1998 年以降) ⁵⁾	40 / 回	
	生涯教育講習会	5 / 回	

- 発表におけるかっこ内数字は筆頭者でない共同発表の点数を示す。
- レフリー制度が整っている学術誌に限る。
- IUTOX, ASIATOX, SOT, EUROTOX, JSOT 共催学会, JSOT 協賛 (後援は除く) 学会
- 日本学術会議トキシコロジー分科会シンポジウム, 応用トキシコロジーリカレント講座等
- 1997 年以前の参加は 10 / 回

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

平成 12 年 6 月 29 日制定
 平成 15 年 7 月 19 日改正
 平成 19 年 1 月 16 日改正
 平成 21 年 7 月 5 日改正
 平成 23 年 1 月 14 日改正
 平成 24 年 1 月 1 日改正

1. 本細則は日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジストの認定制度規定に基づき制定されたものである。
2. 認定資格の継続を希望する者は、理事長宛に資格更新の申請を行うものとする。
3. 資格更新者は下記の基準を満たす者とする。
 - (1) 資格更新申請時にも JSOT 会員であること。
 - (2) 資格更新申請時において、過去 5 年間に別に定める評点基準に従って総合点が 80 点以上であること。
 - (3) 資格更新時に実施する資格更新試験に合格すること。ただし、本試験は過去 5 年間に出题された認定試験問題の中から認定試験小委員会で選出した 100 題を申請者に送付し、一定期間後に回収することで実施する。80 題以上の正答を以て合格とする。なお、この基準に満たなかった者においては一回を限度に再試験を行い、その結果正答が 80 題以上に達した場合には合格とする。
4. 理事長は資格更新申請を受け、教育委員会委員長を経て認定試験小委員会に審査を委嘱する。
5. 認定試験小委員会は資格更新申請者からの申請が上記 3. の基準を満たしているか否かを審査し、その結果を教育委員会委員長を経て理事長に答申する。
6. 理事長は答申案を理事会に諮り、資格更新者を決定し、申請者に通知する。
7. 申請者は通知日より 2 ヶ月以内に更新料（当分の間 2 万円）を学会に納入する。
8. 理事長は更新料が納入されたことを確認し、認定書を交付する。
9. 資格更新時に止むを得ざる理由により手続きが出来なかった者の取り扱いについては理事長が判断する。
10. 細則の変更は認定試験小委員会の議をへて、理事会の承認を得る必要がある。

付則：平成 24 年 1 月 1 日改訂の本規定は同日から施行する。

評 点 基 準

カテゴリー	評 点 項 目	評 点	上限 (5 年間)
I	認定試験の問題作成	20 / 回	80
II	学会活動 JSOT 参加 / 発表 JSOT 認定学会 ¹⁾ 参加 / 発表	5 / 回	25
III	JSOT 公認講習会 ²⁾ (講師を含む)	5 / 回	25
IV	毒性学関連論文 ³⁾	5 / 編	25

- 1) IUTOX, ASIATOX, SOT, EUROTOX, JSOT 共催学会, JSOT 協賛（後援は除く）学会
- 2) JSOT 基礎教育講習会・生涯教育講習会, 日本学術会議トキシコロジー分科会シンポジウム, 応用トキシコロジーリカレント講座等
- 3) レフリー制度が整っている学術誌に限る

米国毒性学会教育コースへの学会員派遣に関する規定

平成 24 年 1 月 4 日制定

1. 設置目的

日本毒性学会は、米国毒性学会（Society of Toxicology, SOT）の学術年会時に開催される教育コース（Continuing Education Courses）に学会員を派遣する事業を行う。本事業の目的は、当学会の次代リーダー候補に研鑽の機会を提供すること、および教育コースの受講成果を当学会に還元させることにより当学会の生涯教育システムの質や情報量を充実させることにある。

2. 対象

派遣する学会員は以下の条件の両方を満たす者とする。

- (1) JSOT 認定トキシコロジスト資格保有者あるいは当学会評議員（原則 45 歳以下とする）
- (2) 本人以外の当学会評議員の推薦を受けられる者
対象人数は毎年 2 名を原則とするが、教育委員長の判断で増減できるものとする。

3. 派遣者の便益および経費

当学会は派遣者に対し以下の費用を給付する。

- (1) 当年の SOT への参加費用および SOT の教育セミナー（教育委員会が指定するコース）への参加費用
- (2) 派遣者の日本国内の居住地と SOT 年会開催地間のエコノミークラス往復航空運賃及び宿泊費（旅行会社が企画する参加ツアーの金額を目安に理事長決裁とする）
- (3) 派遣に関する諸費用は振興基金から支出する

4. 派遣者の責務

派遣対象となった者は、以下の責務を求められるものとする。

- (1) 当年の SOT の教育セミナーの中から教育委員会が指定するセミナーを受講すること。
- (2) 当年または翌年の当学会主催の生涯教育講習会等で講師を務め、受講した SOT 教育コースの内容を報告すること。

5. 選考方法

選考は、公募および理事会の推薦により行う。いずれの場合も下記の 1) ～ 4) の書類の教育委員会事務局への提出が必要である。教育委員会は、これら書類を基に、また候補者の専門分野、業績等を考慮して審査し、教育コース毎に派遣候補者を選出する。理事長の決裁をもって派遣者の決定とする。

- (1) 申請書（形式自由、希望するセミナーを明記）
- (2) 履歴書〔生年月日、当学会の会員番号、最終学歴、職歴（業務内容を簡潔に付記する）、現在の専門分野、学会歴（入会年度、認定トキシコロジスト合格年、評議員歴等）〕
- (3) 研究業績一覧（直近 5 年を中心に）
- (4) 学会評議員の推薦状

付則 平成 24 年 1 月 4 日制定の本規定は同日から施行する。

2012年2月1日 印刷

2012年2月1日 発行

発行人 菅野 純

編集人 永沼 章

発行所 日本毒性学会

編集部 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
東北大学大学院薬学研究科生体防御薬学分野内
TEL (022) 795-6870 FAX (022) 795-6869
E-mail : jts-ed@jtoxsci.org

学会事務局 〒160-0016 東京都新宿区信濃町35 信濃町煉瓦館
財団法人 国際医学情報センター内
日本毒性学会事務局
TEL (03) 5361-7075 FAX (03) 5361-7091
E-mail : jsot@imic.or.jp
振替 00150-9-426831

ホームページ <http://www.jsot.gr.jp>

印刷所 株式会社仙台共同印刷

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2
TEL (022) 236-7161